からはーい

2012年第 1号　2012/02/15

総領事　ご挨拶

今年度復帰４０周年に向けて、米沖関係で色々多くの行事計画が進行中です。５月には、復帰式典が日米関係の重要な成功例の一つとして、過去を振り返ると同時に更に緊密なアメリカと沖縄の関係の未来の道筋を示すことの両方をしるす行事となることを期待しています。復帰以前の大きな成功例の一つは強い人と人との絆と教育事業でした。この過去の実績に倣い、沖縄がダ

続き

★ 領事館情報 ★

“英語おはなし会”　名護市立中央図書館・アメリカ情報コーナーにて

次回開催は2/28（火）です！
毎月第2・第4火曜日の18:00から18:30まで、英語でのお話を聞きに来ませんか？子どもから大人までどなたでもご参加頂けるプログラムです！

“カンバセーション・カフェ”浦添市立図書館・アメリカ情報コーナーにて

続き

垂直離着陸機ＭＶ－２２オスプレイ視察・試乗雑感

シュミレーター訓練を視察する下地幹郎代議士

―ミラマー海兵隊航空基地にて―

政治担当特別補佐官　平安山英雄

１月１９日、下地幹郎代議士の垂直離着陸機ＭＶ－２２オスプレイ視察・試乗に同行し米カリフォルニア州のミラマー海兵隊航空基地を訪問しました。この視察には下地代議士に同行し、日本政府側から外務省北米局地位協定室並びに防衛省防衛政策局日米防衛協力課、更にメディア側からフジテレビ、ＴＢＳ、沖縄地元２紙沖縄タイムス、琉球新報も参加がありました。ミラマー基地では、アンドリュー・オドネル海兵隊少将の歓迎を受け視察がス

続き

エコノミック・パルス

テープカットを行うグリーン総領事(右から2番目)とAIUのノディン日本における代表者(左端)

グリーン総領事、AIU・AHA沖縄事務所移転式典へ参加

レイモンド・グリーン総領事は、1月10日に那覇市おもろまちの「那覇新都心センタービル」で行われたアメリカンホーム保険会社とAIU保険会社の新しい沖縄事務所の開所式に招かれ、来賓祝辞を述べるとともにテープカットに参加した。　両社は、併せて730名程を雇用しており年内には約800人体制になる計画で、その95%を沖縄県内から採用しており、グリーン総領事も沖縄県の産業振興と雇用の確保への貢献に感謝の意を表した。

続き

広報コーナー

IVLP（インターナショナル・ビジター・リーダーシップ・プログラム）について

米国務省は、世界各国の米国大使館・領事館がホスト国の未来のリーダーと認めた方々を米国に招待し、米国内を視察してもらうインターナショナル・ビジター・リーダーシップ・プログラム（IVLP)を行っています。IVLPは、官民が一体となったパー

続き

ウランダぬ風

漫画「アジア・太平洋の新しい夜明け」は、こちらをクリックして下さい。

TOMODACHIとは、東日本大震災からの日本の復興を支援するとともに、長期にわたり日米間の文化的・経済的な結び付きを強化し、友好を深める形で、両国の将来の世代に投資する官民パートナーシップです。

http://mainichi.jp/select/opinion/approach/news/20120204ddm004070137000c.html

http://www.nytimes.com/2012/02/15/world/asia/okinawan-views-on-us-military-presence-are-nuanced.html

総領事　ご挨拶（続き）

イナミックなこの地域の真の国際交流の拠点としてその潜在力を達成する為、私達は支援をするべく再度取り組んでいきます。５月には、又、沖縄は第６回島嶼サミットの開催地としての役割を担います。私達は特に太平洋島嶼国のリーダーの方々には、このサミットが、日本、ハワイ、そして現地沖縄におけるパートナーと協力して私達が進めている島嶼経済のための再生可能エネルギー技術について、知識を深める機会になればと望んでいます。

日米両政府は、沖縄の人口の密集する地域にある基地を削減する更なる努力を進めています。両政府は、この地域における確固とした前方駐留を維持する広範な努力の一部として、そのような動きを加速する計画を最近発表しました。この共同行動は、沖縄の人口の集中する中南部地域の米軍基地の駐留を具体的に削減する一方で、厳しさを増すこの地域の安全保障環境の中で平和を維持することに資するものです。　ＭＣＡＳ普天間を辺野古のキャンプ・シュワーブに移設する日米両政府の取り組みに変更はございません。この計画に対する批判はありますが、現在近隣の地域に存在する騒音や安全に関する懸念を少なくすることにかなりの現実的効果があることは誰も否定できないと思います。

嘉手納以南の基地の返還計画を策定するにあたり、これらの返還地の開発を促進するため私達は地域社会並びに日本政府としっかりパートナーを組んでいくことを望んでいます。キャンプ・キンザー、普天間飛行場、キャンプ・レスター等の基地は、沖縄の経済、教育、観光開発を促進する上でたいへん良い立地条件下にあります。私達はすでに、地元のパートナーと一緒になって、沖縄の子供達に外国語学習を奨励すると共に日本本土のみならずアジア地域の修学旅行の誘引効果もねらい、英語特区を設置する調査研究を進めています。

1ページ目に戻る

エコノミック・パルス（続き）

沖縄の2名のIVLP参加者、バイデン副大統領と会う

2012年1月16日（月）－ 沖縄からインターナショナル・ビジター・リーダーシップ・プログラムに参加している沖縄県庁の大濱克行さんと宮古島市役所の富浜靖雄さんが、ペンシルベニア州フィラデルフィアのジラード大学で開催されていた、マーティン・ルーサー・キング牧師誕生日の連邦休日の奉仕活動でバイデン米副大統領と会う機会に恵まれました。このグループは、3週間の研修の一環でペンシルベニア州フィラデルフィアに滞在しており、ワシントンDC、ネバダ州リノとハワイ州のホノルルも訪問します。このプログラムは彼らが米国のクリーンエネルギー政策の調査を支援するために企画されたものです。政策立案者、企業の代表、研究者そして市民団体との面談を通して、直面している国際的なエネルギー供給の課題、気候変動への対応、化石燃料の分配、そして代替エネルギーへの依存をさらに多様化させるといったことを含めた、様々な領域の重要な課題について学習する機会となります。

バイデン副大統領と一緒に写真に納まる沖縄県庁の大濱さんと宮古島市役所の富浜さん。

1ページ目に戻る

広報コーナー(続き)

トナーシップのもとに行われており、米国のボランティア団体が草の根レベルで、参加者一人ひとりについて参加者の関心分野にかかる視察スケジュールを組み、運営しています。さらに、一般家庭でのもてなし、米国内各地への旅行、ボランティアによる活動、文化的イベントへの参加を通じて、将来米国にとって貴重なコンタクトになると思われるIVLP参加者に米国での生活を体験してもらっています。

ＩＶＬＰガールスカウト・プログラムのハイライト！
テキサス州で行われたガールスカウト誕生100周年記念大会に参加した神谷明希さん。

このプログラムが日本に導入されて以来、米国政府は、じかに米国を知ってもらうために、さまざまな分野から2,300人を超える優秀な日本の方々を米国に招待しています。ノーベル文学賞受賞者の大江健三郎氏、海部・細川・菅元首相、その他日本社会で影響力を持つようになった大勢の方々がこのプログラムの同窓生です。そのほかにも著名な政治家、経済人、文化人、ジャーナリストがこのプログラムに参加しています。

在沖米国総領事館からも毎年複数名が選ばれており、議員、市町村長、公務員、経済界の若手リーダー、メディア関係者、教師、ＮＧＯ職員など多岐に渡る分野の皆様の派遣を行っています。

直近では将来の女性リーダーをテーマにしたプログラムで、日本からはただ一人、琉球大学3年生のガールズスカウト指導員が選出されました。参加された神谷さんからは、世界23カ国から参加した他のメンバーとともに3週間ノンストップで、施設訪問・意見交換会に交流会とアメリカ各地を飛び回って大変だったけどとても勉強になった、との報告を頂きました。

このプログラムの大きな魅力は、何と言いましてもご自身での視察研修では組むことが難しい面談先や施設等について全て国務省にて手配することかと思います。参加費につきましても、アメリカに到着してからの各都市間の移動や滞在費、通訳等の費用については国務省が負担することにより、参加者自身の負担が軽減するよう配慮されています。

これからもこのプログラムを通じまして、多くの沖縄の皆様に「真の」米国を知ってもらい、また米国人と「真の」トモダチになってもらう機会をつくることで、琉米関係の発展に寄与したいと考えております。

国務省人物交流プログラム（IVLP）に参加したすべての方に、同窓生ウェブサイトへのご登録をお勧めしております。登録すると今後のイベント情報を受け取ることができると同時に、世界中の同窓生とのネットワークも広がります。国務省人物交流プログラム同窓生ウェブサイトへのご登録については下記のリンクをクリックして下さい。http://connectusa.jp/exchange/community.html

1ページ目に戻る

follow us on twitter

ツイッターでも情報を発信しています。フォローよろしくお願いします！

フェイスブックを始めました。

垂直離着陸機ＭＶ－２２オスプレイ視察・試乗雑感(続き)

タートしました。午前中に現地司令官並びに関係者との意見交換、ＭＶ－２２オスプレイの詳しい説明がジェイソン・ホールデン中佐からあり、その後訓練用シミュレーターの視察を行いました。参加者とミラマー基地の関係者、並びに米国国防省の関係者等との昼食懇談会の後、午後はオスプレイの視察と約４５分間の試乗を行い、その音、性能等を肌で直接体感しました。全体的な私個人の試乗体験の感想は、一部に言われている、「極めて危険な、騒音のひどい航空機」との印象はなく、過去に搭乗体験のあるＣＨ－４６ヘリと殆んど変わらないか、むしろ古いＣＨ－４６より騒音のレベルは低く感じました。更に、オスプレイは通常のヘリに比べて離陸時間が短く、離陸後高度を速やかに上げ、スピードも上げ短時間で飛行場から離れることができるため、従来のヘリより騒音の影響はかなり減少されると期待しました。また、オスプレイはシミュレーターでの訓練が訓練全体の約４０％で、ＣＨ－４６のシミュレター訓練の約３０％と比較して多いため外部への騒音の影響は軽減されるとの確信も持ちました。

ＭＶ－２２オスプレイは、これまでの報道では過去の開発段階での事故が大きく取り上げられ、同機体に対するネガティブなイメージが醸成され、危機感を煽っていますが、機体は改良が重ねられ、ＭＶ－２２は運用開始後は重大事故は発生していません。試験及び開発段階での事故の発生率では、ＣＨ５３Ｅが１５９．０、Ｆ－１４Ａが７８．７であったのに対して、オスプレイは７７．３でした。ＭＶ－２２オスプレイに関しては、実際、飛行停止が明けた２００２年以後は、死亡事故は起きていないということでありました。飛行再開後、会計年度２００３年から２０１１年までの海兵隊保有航空機の平均事故発生率は２．４７で、ＣＨ－５３Ｅが２．１０、ＣＨ－４６Ｅが１．１４で、オスプレイは１．１２でそれぞれの航空機と比べて若干低くなっています。
オスプレイの最高速度は300kt（約555km/h)を超え、これは高速のヘリコプターの最大速度である200kt(約370km/h)と比べても1.5倍の速度であり、現在アメリカ軍が採用している同規模の輸送用ヘリコプターと比べても実に2倍以上の速度であります。航続距離も空中給油などを併用した場合最大で2,000ｎｍ（約3,700km)以上と長いものとなっています。

垂直離着陸機ＭＶ－２２オスプレイの概要と性能

Ospreyはタカ科の鳥ミサゴを意味し、日本のノメディアではオスプレイ、オスプレーなどと表記され、その概要は以下の通りです。

用途：輸送機

分類：ティルトローター機

製造者：ベルエアクラフト、ボーイングヘリコプターズ

運用者：アメリカ合衆国海兵隊、空軍

初飛行：1989年3月19日

運用開始：2005年12月8日

ユニットコスト：6,227万米ドル(FY2008-2012)

全長：１７．４７ｍ

全幅：２５．５４ｍ（ローター含む）

全高：６．６３ｍ　（ＶＴＯＬ時）

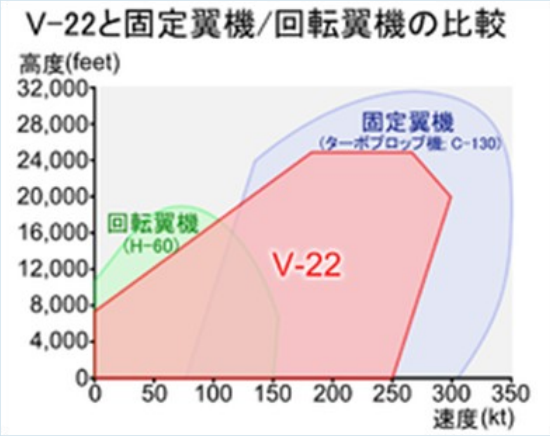
ローター直径：１１．５８ｍ

航続距離：８７９ｎｍ（１，６２７ｋｍ）

最高速度

通常時：３０５ｋｔ（５６５ｋｍ／ｈ）

ヘリモード時：１００ｋｔ（１８５ｋｍ／ｈ）



(続き)　　1ページ目に戻る

垂直離着陸機ＭＶ－２２オスプレイ視察・試乗雑感(続き)

国防総省では約４６０機のV-22を調達することを計画しているが、現在の運用機数は、飛行用が１６０機で地上訓練用が９機であるのとの説明がありました。

安全性に対する懸念、客観的事実と事実誤認

オスプレイは開発段階で事故が多発したためティルトローターの特性を原因として根本的に安全性が不足しているとの批判がありますが、アメリカ国防総省では事故の原因は調査済みで改良が重ねられ、安全性は十分に確保されているとしており問題はないとしています。オスプレイの沖縄配備においては騒音を懸念する声がありますが、アメリカでの調査で現用のCH-46Eと比較して、飛行中は全ての領域でより静かであるという結果が出ています。2008年7月22日にはイラクを訪問したバラク・オバマ大統領（当時大統領候補）がオスプレイに乗り安全性をアピールしています。

オスプレイはこれまでその安全性や機能について不正確な情報が流れ、多くの県民の皆様に誤解を与えています。例えば、ＭＶ－２２は自動回転機能（オートローテーション）が欠如しているとの報道がありますが、自動回転機能は有ります。この制御機能は二つのエンジンに異常が発生した場合に緊急着陸を可能にします。オスプレイの両翼にあるエンジンが２機とも停止した場合の緊急着陸について、地元メディアで、固定翼機モードで飛行中に２つのエンジンが停止した場合にヘリモードに戻すことができず安全に着陸できないとの報道がありました。固定翼機モードで飛行中の場合の二機のエンジンの同時停止については、一般の固定翼航空機と同様に滑空しながら安全な場所を探して緊急着陸をすることになるとミラマーでは説明がありました。二つのエンジンが機能を停止した場合、それぞれの飛行モード、固定翼機モードの場合は他の固定翼機同様グライダーように、ヘリモードで飛行中の場合は、ヘリコプターの揚力を活用するオートローテーション機能によって緊急着陸することになるとの説明でした。二つのエンジンの同時停止は極めて極端なケースであり、これまでそのような事例は一度もないとの説明でした。しかしながら、パイロットは殆んど起こりえないシナリオを想定して、シミュレーターでその対処の訓練を定期的に行っているとのことでした。また、２つあるエンジンのうちの１つが停止した場合には、２つのプロペラがシャフトでつながっているため、機能している１つのエンジンだけで２つのプロペラを回して、きちんと飛ぶことができると説明していました。

オスプレイについてのブリーフィングを受ける視察団

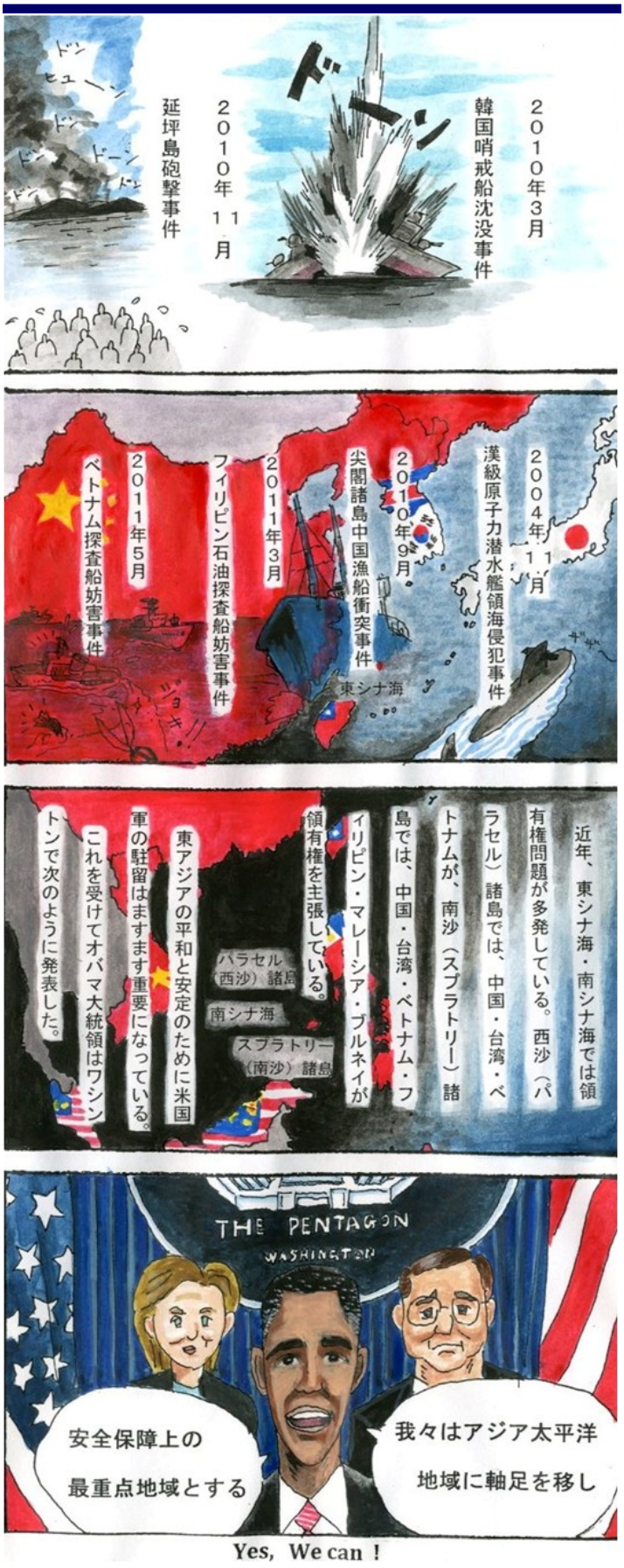
むすび

垂直離着陸機ＭＶ－２２オスプレイは回転翼機と固定翼機の二つの機能を有する独特な新しいタイプの航空機です。オスプレイについては、安全性について過去の開発段階での事故の情報や、騒音についてのさまざまな情報で県民の皆様がその配備にたいへん懸念を持っていることを承知しております。しかしながら、今回試乗してみて、現行の機種と比較して性能面では明らかに向上していますし、安全性や騒音についても問題ないレベルにあるとの印象を持ちました。オスプレイの沖縄への配備時期については、ミラマーでの説明では２０１２年内を予定しておりますが、配備の詳細な日程は様々な要素があり未定であるとのことでした。

私達はこの航空機がどこでどのように運用され、地域社会にはどんな影響があるのかを、県民の皆様に正確にご理解をいただくことの重要性を深く認識しております。より多くの沖縄県民の皆様がオスプレイについて正しい知識を深めることで、同機種の安全性と性能について自信を持っていただけるものと信じています。今回の経験を直接伝えることによって県民の皆様の疑問や懸念が少しでも緩和されれば幸いです。

1ページ目に戻る

アジア・太平洋の新しい夜明け



★ 総領事館イベント情報 ★（続き）

次回開催は2/22（水）です！

毎月第2・第4水曜日の16:30から17:15まで、気軽に英会話を楽しみましょう！

領事館と英語で朝活☆
次回開催は2/28（火）です！
毎月第２と第４火曜日にスターバックス浦添バークレーズコート店にて午前7時半より１時間、領事館スタッフとの英会話を楽しみませんか？英語を練習してうまくなりたいと思っている方はぜひ、ご参加下さい。

アメリカ情報コーナーイベント：米国大学留学攻略法（講演会）
日時：2012年2月25日（土）午後2時～午後4時
会場：浦添市男女共同参画推進ハーモニーセンター
州立モンタナ大学の留学生担当者（ジェリー）が留学のノウハウをお教えします。また在沖米国総領事館職員が学生ビザの手続きについて分かりやすく説明いたします！

アメリカ情報コーナーイベント:「アメリカンドリームを追いかけて」(講演会)‥2回講演！
日時:2012年3月28日(水)午後6時～午後7時
会場:名護市立中央図書館(アメリカ情報コーナー)

日時:2012年3月29日(木)午後5時～午後6時
会場:浦添市立図書館(アメリカ情報コーナー)

講演者：小山田真氏（ハリウッド俳優、プロデューサー、慈善家、格闘家）２００３年、トム・クルーズと渡辺謙が共演した映画「ラスト・サムライ」で準主人公・信忠役に大抜擢され、その姿が全世界のスクリーンで躍動した小山田氏。現在ハリウッド俳優・プロデューサーとして、また格闘家や慈善家として幅広く活動している小山田さんから、彼のアメリカンドリームについて、夢と計画、アメリカ留学体験、そしてアメリカを象徴するハリウッドの活力などについてお話頂く予定です。

予告：４月中旬には北朝鮮の専門家であるデービッド・ストラウブ（スタンフォード大学　韓国研究プログラム 副ディレクター）をお招きして**「新体制下の北朝鮮と東アジアの安全保障」**と題する講演会を開催予定となっています。

1ページ目に戻る